

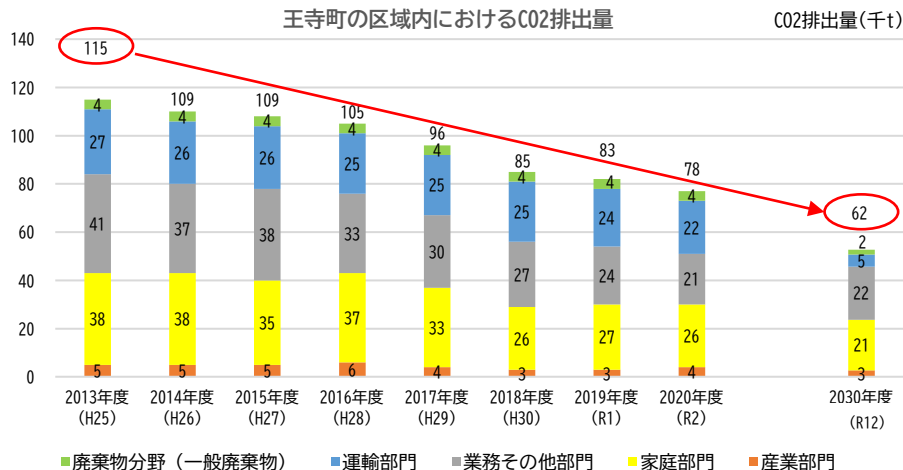
1. 地球温暖化対策ビジョン策定の目的

- 国の地球温暖化対策計画【2021年(R3)10月22日閣議決定】では、計画目標として「2030年(R12)において、温室効果ガスを2013年度(H25)から46%削減。さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける」としています。
- 王寺町では、国の取組と歩調を合わせ、町域でのCO2排出量の削減に効果的な施策を推進するため本計画を策定するものです。

2. 王寺町の現状について

(1) 王寺町の区域内におけるCO2排出量の現状（※1 自治体排出カルテより）

- 王寺町の区域内におけるCO2(二酸化炭素)の排出量は、2020年度(R2)において78千tと、基準年度となる2013年度から▲32%(▲37千t)となっています。国の計画目標をひとつの基準とするなら、2030年度までにあと▲14%(▲16千t)の削減が必要です。(2013年度から見ると▲53千t)

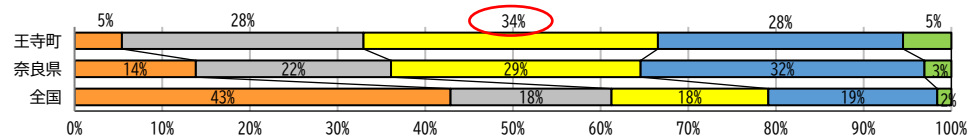


産業部門：製造業、農林水産業、建設業におけるエネルギー消費に伴う排出
業務その他部門：事務所、ビル、商業・サービス施設のほか、他のいずれにも帰属しないエネルギー消費に伴う排出
家庭部門：家庭におけるエネルギー消費に伴う排出
運輸部門：自動車、鉄道におけるエネルギー消費に伴う排出
廃棄物分野：廃棄物の焼却、埋立、排水処理に伴い発生する排出

※1 「自治体排出カルテ」・・・地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)における対策・施策を検討するための参考ツールとして、環境省が作成した資料で地方公共団体の区域ごとのCO2排出推計データや特定事業所の排出データ等を取りまとめたもの。

(2) 令和2年度(2020)における部門・分野別の構成比（自治体排出カルテより）

- CO2排出量を部門別に分けてその構成比を見ると、王寺町の区域内は、全国や奈良県と比べて「家庭部門」の占める割合が一番多くなっています。



■産業部門 □業務その他部門 ■家庭部門 ■運輸部門 ■廃棄物分野 (一般廃棄物)

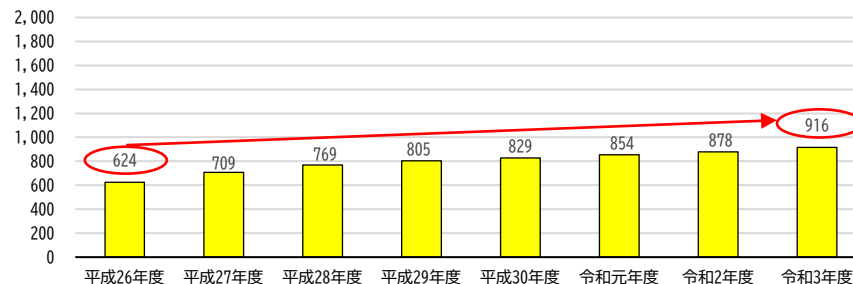
(3) 令和3年度(2021)の王寺町の再生可能エネルギーの導入状況（自治体排出カルテより）

- 令和3年度(2021年度)において、再生可能エネルギーの発電電力量がその区域内の電気使用量に対して占める割合は次のとおりです。王寺町の割合は7%で、全国及び奈良県の約2分の1と低くなっています。

・王寺町	7.0%	(再生可能エネルギー発電電力量 6,966MWh 区域内の電気使用量 99,684MWh)
・奈良県	15.1%	(" " 954,614MWh " 6,305.223MWh)
・全国	16.5%	(" " 134,898,236MWh " 816,928,428MWh)

- なお、王寺町の区域内では、家庭用太陽光発電の導入件数が増加傾向にあります。令和3年(2021)の設置件数(916件)は、平成26年度(624件)の約1.5倍となっており、今後、一層の普及促進が望まれます。

令和3年度の王寺町の区域内における家庭用太陽光発電の導入件数 (単位：件)



※参考) 国…約1.7倍増加、奈良県…約1.5倍増加